

ーフレットを作成し、様々な機会を通して周知徹底を図っている。このリーフレットとガソリンの注意事項を表示したシールを露天商組合行田支部に配布し、安全管理の徹底を図っている。

併せて、同支部では、各露店に消火器を自主設置するなどの対応を図っている。

また、忍城時代まつりでは、露店での消火器の設置状況や火気器具などの安全状況の確認を行っている。

問 祭り会場での安全対策及び警備体制について伺いたい。
答 多数の人々を集客する催しでは、主催者が事前打ち合わせ会議を開催し、関係者に対しての火災予防対策などについて協議を行っている。危険物の取り扱い方法の指導や設置状況、出店ルールの確認は露天商店主や主催者側の責任において、安全性の確認を行っている。

また、町内会、自治会などの祭りでは、開催状況の把握が難しいため、自治会などで行われる消防訓練時にリーフレットなどを配布し、安全確保に努めていきたい。

〔その他の主な質問〕
○地域包括ケアシステム

まちづくり
地域ぐるみで
安心・安全の
街づくり
東 美智子
(公明党)

問 セーフコミュニティとは、WHO(世界保健機関)セーフコミュニティ協働センターが推進する安心・安全なまちづくりの国際認証制度である。

セーフコミュニティでは、私たちの安心・安全な暮らしを脅かす大きな要因である「けがや事故」に着目し、けがや事故などは偶然の結果ではなく、原因を分析し対策することで予防ができるという概念のもと、これまでの地域活動や事業を生かしながら、予防に重点を置き、科学的な分析と地域住民、関係機関、行政などの分野を超えた連携・協働により、安心・安全なまちづくりに向け、より効果的で継続的な活動を行っている。

WHO世界基準の安心・安全のまちづくりについて、どのような認識を持っているのか。

か。

答 本市では第5次行田市総合振興計画に基づき、各部署はもとより地域住民、各種関係機関などが協力し、安心・安全なまちづくりに向けた施策を推進している。

セーフコミュニティ認証取得に向けた活動は、すべての人たちが安心で安全に暮らせるまちづくりに通じるもので、人々とのつながりを深める効果も期待されるものと認識している。

現在も人と人との絆、コミュニティをベースとした地域づくりが市内各地域において取り組まれていることから、今後も地域住民を初めとした関係機関との協力連携を強化し、安心・安全なまちづくりを推進していきたい。

なお、今後は、県内自治体の認証取得への取り組みによる成果と課題について、情報収集していく。



第5次行田市総合振興計画

まちづくり
JR行田
駅前周辺の
整備について
石井直彦
(しんりよく会)

問 平成3年度を初年度とした第3次行田市総合振興計画、平成13年度から第4次行田市総合振興計画の中でも、JR行田駅周辺をまちの顔と位置づけ、商業機能の充実を促進し、個性ある賑わいを創出するとある。また、平成26年度予算には、行田駅周辺整備計画策定業務委託料500万円を予定している。計画だけではなく、実効性について伺いたい。

まず、JR行田駅前の最重要課題は岩崎電気である。岩崎電気の移転は視野に入っているのか。また、どんなアクションを行っているのか。

答 岩崎電気の移転については、現在相手方の意向を確認していない。しかし駅に近く広い土地は魅力的であり、有効活用できると考えられるので、来年度、整備計画を策定する中で、地域住民や関係団体の意見や要望を伺いながら、総合的に検討した上で、適宜話し合いを進めていきたい。

問 駅前の歩道整備について、対策はどこまで進んでいるのか。また、対策はいつまでに終わるのか。
答 歩道用地の一部未買収の箇所については、用地交渉を継続しているが、解決に至らない状況である。

市としては、一日も早い整備を目指し、事業主体である埼玉県に対して交渉の継続的な実施を働きかけていく。

問 志里山町と清水町間の踏切対策はどこまで進んでいるのか。
答 行田警察署に確認したところ、現在踏切周辺の道路の安全対策案を作成し、埼玉県警察本部に申請しているとの